

## ⑫ 特 許 公 報 (B 2)

昭61-49420

⑬ Int. Cl.

D 04 B 7/34  
7/26

識別記号

庁内整理番号

7352-4L

⑭ 公告 昭和61年(1986)10月29日

発明の数 1 (全9頁)

⑮ 発明の名称 編成休止渡り糸の処理方法

⑯ 特 願 昭57-1277

⑰ 公 開 昭58-120844

⑱ 出 願 昭57(1982)1月6日

⑲ 昭58(1983)7月18日

⑳ 発 明 者 藪 田 正 弘 和歌山市津泰205番地

㉑ 出 願 人 株式会社島アイデア・ 和歌山市神前357番地  
センター

㉒ 代 理 人 弁理士 西村 武美

審 査 官 中 西 一 友

1

## ㉓ 特許請求の範囲

1 横編機の前後両側の針床に植設されている編針群の、キャリッジの往復摺動に基づく循環編成動作により、複数種の編糸を使用して縞柄又はジャガード柄等を袋編みする際、任意の編糸をして複数コースの間その編成を休止させた場合において生じる、編目を形成しない該編糸からなる渡り糸を、他の編糸により編目を編成している編針群のうち、針床の一端側の1乃至数本の編針に、任意のコースにおいてタックせしめること、を特徴とする編成休止渡り糸の処理方法。

2 前記渡り糸を、1乃至数コースおきにタックせしめる、特許請求の範囲第1項に記載の編成休止渡り糸の処理方法。

3 前記渡り糸をタックせしめる方法が、キャリッジ上のニッティングロックが針床の一端側の前記1乃至数本の編針位置を通過して後、再びそれが該編針位置に到達するまでの間において、先づ該編針をタック位置に突き上げ、次に前記編成休止編糸の給糸口をして上記編針に給糸できるストロークー往復動作させ、該給糸動作の完了後前記編針をニッティングロックの作用位置に位置させること、である特許請求の範囲第1項または第2項に記載の編成休止渡り糸の処理方法。

4 前記編針のタック位置への突き上げ動作を、25 編針に配設せるサブジャックの作用によつて行う、特許請求の範囲第3項に記載の編成休止渡り糸の処理方法。

2

## 発明の詳細な説明

横編機の前後両側の針床に植設されている編針群に、キャリッジの往復摺動に基づく循環編成動作を与えると、袋編み組織が得られる。

5 この袋編みを、数コースおきに編糸を変えて、例えば編糸の種類を変えとか、編糸の色を変え等して編成すると、編成コースの方向に沿った縞柄とか、ジャカード柄を編成できる。

例えば、手袋編機によつて手袋1を編成する際、すなわち第1図に示してあるような手袋1を、従来方法にしたがつて、小指2、薬指3、中指4、人差指5、四本指6、拇指7、五本指8そして手首部9の順に編成する際において、小指2から四本指6の一部までを編糸aにて編成し、四本指6の残部を、数コースづつ順次異なる編糸、例えば夫々異なる色糸b, c, dにて編成し、拇指7とそれに続く五本指8の一部を、再び編糸aにて編成し、しかる後、残る五本指8の部分を、再び前記編糸b, c, dにて順次編成した場合には、縞柄のメリヤス手袋が得られるのであるが、このように編成すると、各編糸の切換部位間において、編目を形成しない編糸a', b', c', d'の部分

は、それが渡り糸となつて、第1, 2図に示す如く、手袋の外側に露出することになる。

したがつて従来方法では、このような渡り糸a', b', c', d'は、手袋の編上り後、これを手作業により切断して、その両断端を手袋の胴内に引き込み手袋を形成している編目にかがりつけな

ればならなかつたのであつて、この手作業には、非常に多くの手数を要していた。

そこでこの発明は、横編機によつて縞模様とかジャカード模様等を袋編した場合に生じる、上記のような手数を不要ならしめることができ、上記したような複数種類の編糸による袋編みの交替編成時又はジャカード柄編成時等に生じる渡り糸を、袋編組織の表目に露出しないよう、その編成時において、同時に、機械的に処理しうる、新規な袋編組織の編成方法を提供しようとするものであつて、その要旨とするところは、上記渡り糸を、他の編糸により編目を編成している編針群のうち、針床の一端側の1乃至数本の編針に、任意のコースにおいてタックせしめる点にある。

実施例を図について説明すると、第3図に示した手袋1は、本発明の方法によつて渡り糸a', b', c', d'を処理した手袋で、本発明の方法にしたがつて渡り糸を処理しつつ、四本胴6の部分及び五本胴8の部分、編糸a, b, c, dにて縞柄に編成した手袋1には、同図に見られるように、渡り糸a', b', c', d'が手袋の表側に露出しないのであるが、この発明にしたがつた渡り糸の処理は次のように行われる。

すなわち、第4図において、10, 10'は前後の針床に植設された編針で、10<sub>1</sub>'は後側の針床上の小指2側端を編成する編針、10<sub>2</sub>'はその隣の編針である。そして11aは編糸aの給糸口、11bは編糸bの給糸口、11cは編糸cの給糸口、11dは編糸dの給糸口であるが、手袋1の前記四本胴6部分を、編糸aから編糸bに切換えると、この切換つた位置から、編糸aは、編目を形成しない渡り糸a'となるので、編糸bによるこの四本胴6部分の編成コースにおいては、給糸口11bによる編成コースの数コースおきに、例えば3コースに1コースだけ、キャリッジの一往復動作時において、給糸口11bにより編糸bが最初に供給される後側の2本の編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'を、該編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'に給糸口11bから編糸bが供給されて、ニツティングロックが通過した後、第5図に示す如くサブジャック18<sub>1</sub>', 18<sub>2</sub>'を編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'に作用させて、編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'を開舌タック位置まで突き上げる。しかる後、給糸口11aをして一往復キャリッジの運動に連動させるのであるが、この給糸口

11aの一往復動作は、第6図に示す如く、その右方向への往動時には、給糸口11bの右方向への往動に対して相対的に一定間隔 $\alpha$ の位相の遅れを与え、その左方向への復動時には、給糸口11bの左方向への復動に対して相対的に一定間隔 $\alpha$ の位相の進みを与える如く行わせて、給糸口11aと給糸口11bの復動を同時に開始させると共に、給糸口11aに、該給糸口11aが、少くともタック位置に突き上げられた編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'に対して渡り糸a'をタックせしめうるに足るストローク $\beta$ を与えるのである。

上記のように給糸口11aを一往復動作させるならば、このコースにおいて、渡り糸a'は、該コースの編糸bが編成された後の編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'に開舌タックされることになる。したがつて、このようにして編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'に渡り糸a'をタックさせると、タックされた渡り糸a'は、次のコースが給糸口11bから給糸される編糸bにて編成されたとき、2本一組の編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'の外側に絡められた状態となつて、第7図に示す如く編針10<sub>2</sub>'の外側(第7図上左側)のこのコースのシンカーループに係合された状態となり、編糸bによる次のコースにおいては、編針10<sub>1</sub>'の右側のシンカーループに係合せしめられることになるのである。上記のような給糸口11aによる渡り糸a'のタックを、編糸bによる編成コースの2コースおきの各1コース毎に行うと、第7図に示してあるように、編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'によつて編糸bによる編地が形成されたウェールの両サイドの、編糸bからなる編地のシンカーループに、渡り糸a'がジグザグ状に絡められて、渡り糸a'が、袋編地の表に現われることなく、編糸bからなる編地の裏面に固定して位置された、編地を得ることができるのである。

なお、上記実施例においては、2コースおきの各1コース毎に渡り糸a'を2本の編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'に対してタックせしめたが、他の実施例においては、上記同様の方法によつて、1コースおきの各1コース毎に渡り糸a'を2本の編針10<sub>1</sub>', 10<sub>2</sub>'に対してタックせしめてもよく(その場合は第8図の如き編組織となる)、また他の実施例においては、上記同様の方法によつて、2コースおきの各1コース毎に、渡り糸a'を1本の編針10<sub>1</sub>'にのみタックせしめてもよく(その場合には

5

第9図に示す如き編組織となる)、更に他の実施例においては、2コースおきの各2コース毎に、2本又は1本の編針10<sub>1</sub>'、10<sub>2</sub>'又は10<sub>1</sub>'に対して、渡り糸a'をタックせしめてもよいのであつて(図示せず)、当該編成コースにおいて編成休止糸となる編糸、すなわち渡り糸a'を、編針10<sub>1</sub>'、10<sub>2</sub>'……にタックせしめるコース目の数と、この渡り糸a'をタックせしめる編針10<sub>1</sub>'、10<sub>2</sub>'……の数は、上記実施例に限定されるものではない。

また、上記実施例においては、キャリッジの往復動作時において、給糸口11bにより編糸bが最初に供給される後側の2本の編針10<sub>1</sub>'、10<sub>2</sub>'に、編糸bの給糸後、渡り糸a'をしてタックせしめたが、他の実施例においては、上記同様の給糸口11aの動作によつて、つまりその復動時において、給糸口11bにより編糸bが最後に供給される前側の編針10<sub>1</sub>'、10<sub>2</sub>'に対して、編糸bの給糸前において、渡り糸a'をタックさせてもよい。

また、上記同様にして、実施例の手袋1の四本胴6の部分で編糸c及びdにて編成する間、ならびに五本胴8の部分で編糸a、b、c及びdにて編成する間、夫々、交代的に編目を形成しない渡り糸となる編糸a'、b'、c'及びd'を、上記渡り糸a'同様にして、他の編糸によつて編目を編成している編針群のうちの針床の一端側の1乃至数本の編針10<sub>1</sub>'、10<sub>2</sub>'……又は10<sub>1</sub>'、10<sub>2</sub>'……に、任意のコースにおいてタックせしめれば、手袋1の各部において交代的に渡り糸となる編糸a'、b'、c'、d'の部分をして、袋編地の裏面にジグザグ状に絡めしめ、これらの渡り糸a'、b'、c'、d'が、編地の表面に現われないよう、機械的に処理しつつ手袋の縞模様部分を袋編みでき

6

るものである。

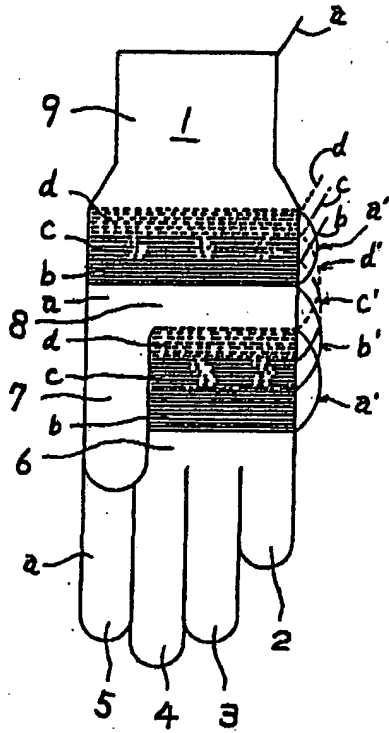
以上、この発明に係る編成休止渡り糸の処理方法を、手袋の胴部の縞模様編成に例をとつて、いくつかの実施例を挙げて、これを説明したが、この発明に係る編成休止渡り糸の処理方法は、手袋に限らない、横編機によるあらゆる袋編み組織の編成時において、複数の編糸による縞柄又はジャカード柄の編成を行つた際、任意の編糸をして複数コースの間その編成を休止させた場合において生じる、編目を形成しない当該編糸からなる渡り糸をして、その編成の途中において、機械的に処理して、袋編生地の外側に長く露呈しないよう、これを編成しうるものであり、この発明の方法は、上記渡り糸をして、袋編組織のシンカーループに、編地の裏側から絡ませる方法であるから、渡り糸は、編地を形成している編糸のニードルループ下にかくれることになつて、外部には全く表われない。したがつてこの発明の方法によれば、編成休止渡り糸をして、柄模様全く影響を与えることがないように、これを機械的に処理しうるものである。

#### 図面の簡単な説明

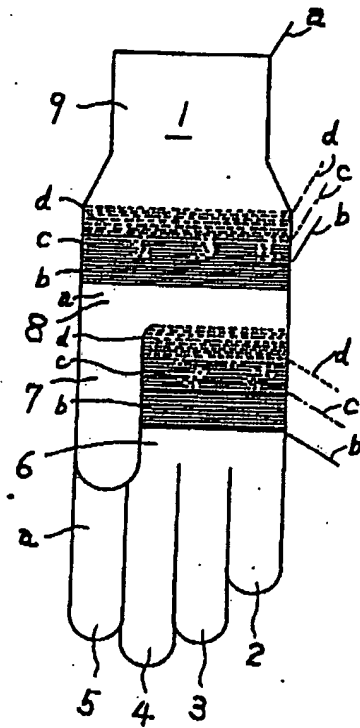
第1図は従来方法によつて編成した手袋の平面図、第2図は同手袋の編成休止渡り糸部分を示した組織図、第3図はこの発明の方法によつて編成休止渡り糸が処理された手袋の正面図、第4～6図は本発明の方法の説明図、第7図は本発明の方法によつて編成休止渡り糸が処理された手袋の一部の組織図、第8、9図は夫々他の実施例を示した第7図と同一部分の組織図である。

10、10'、10<sub>1</sub>、10<sub>2</sub>、10<sub>1</sub>'、10<sub>2</sub>'……編針、11a、11b、11c、11d……給糸口、a、b、c、d……編糸、a'、b'、c'、d'……渡り糸。

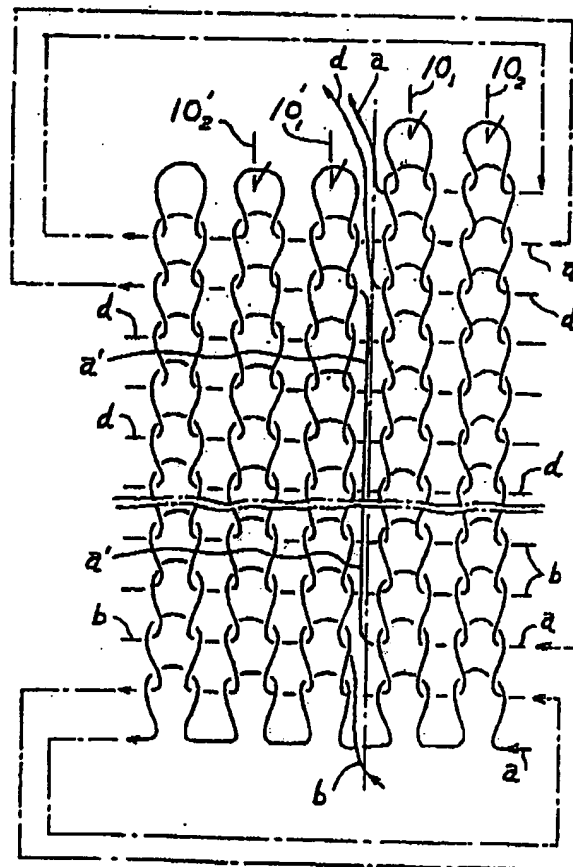
第 1 図



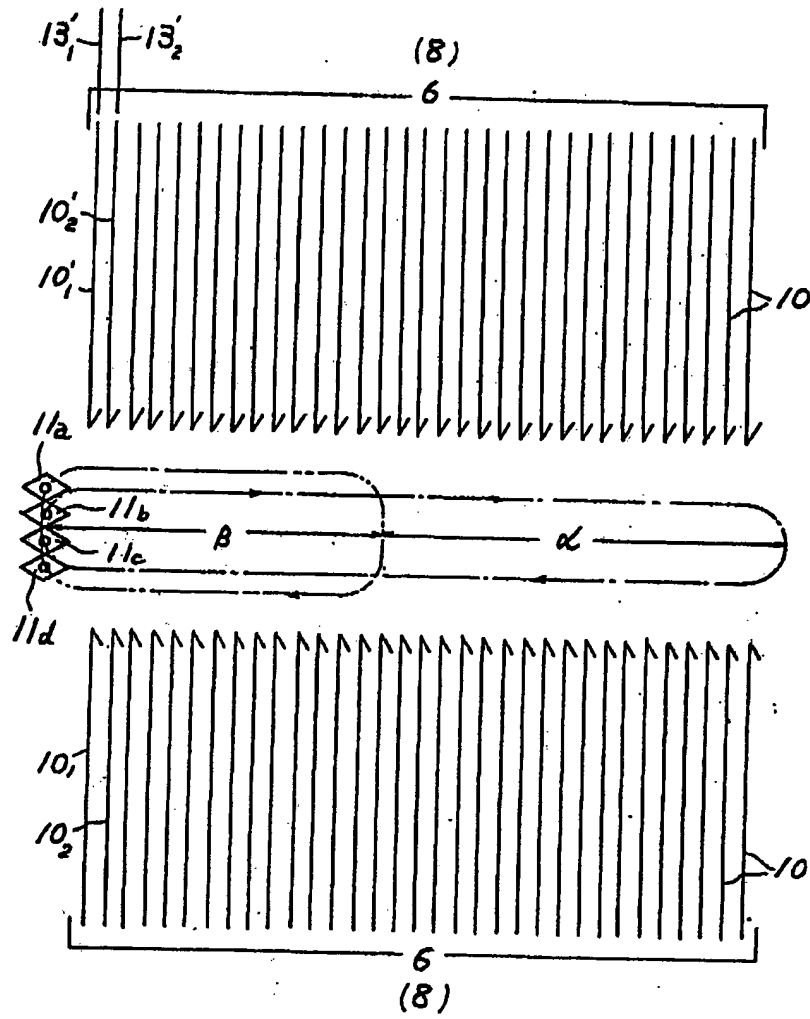
第 3 図



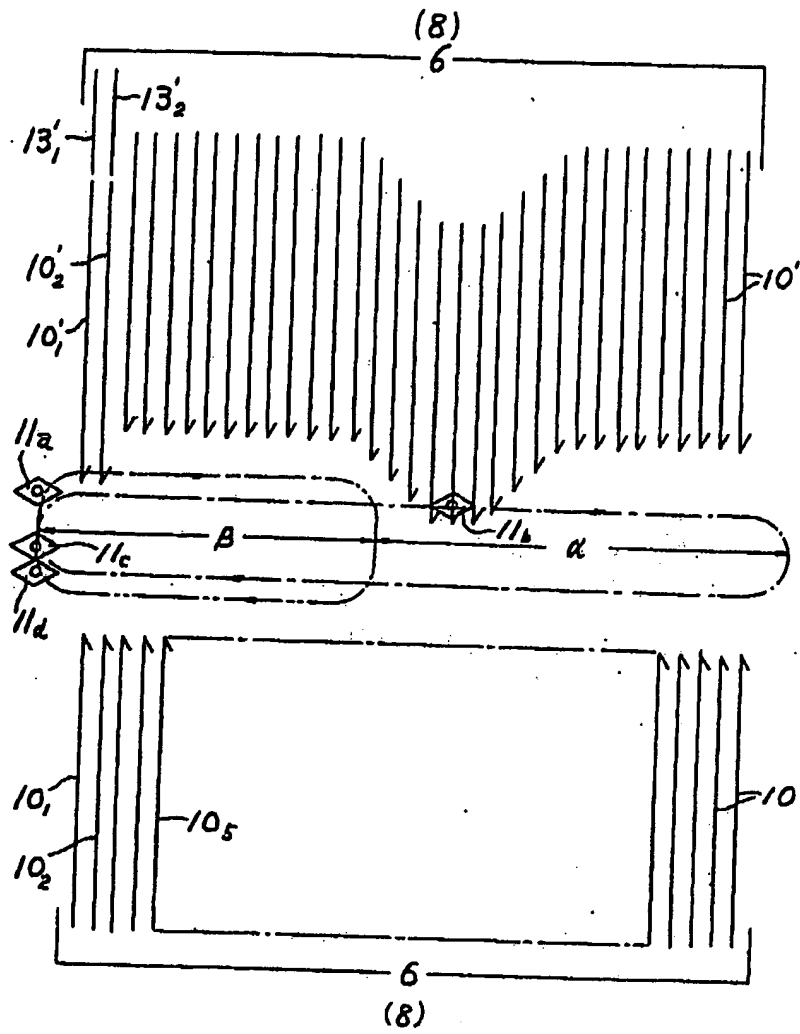
第 2 図



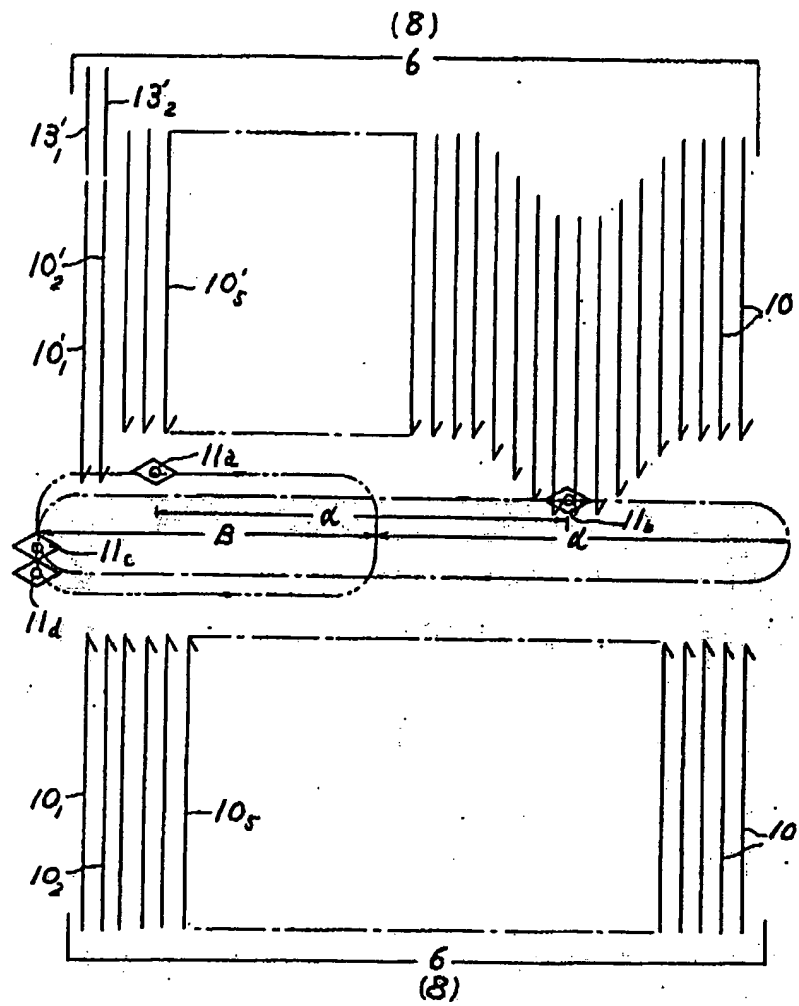
第 4 図



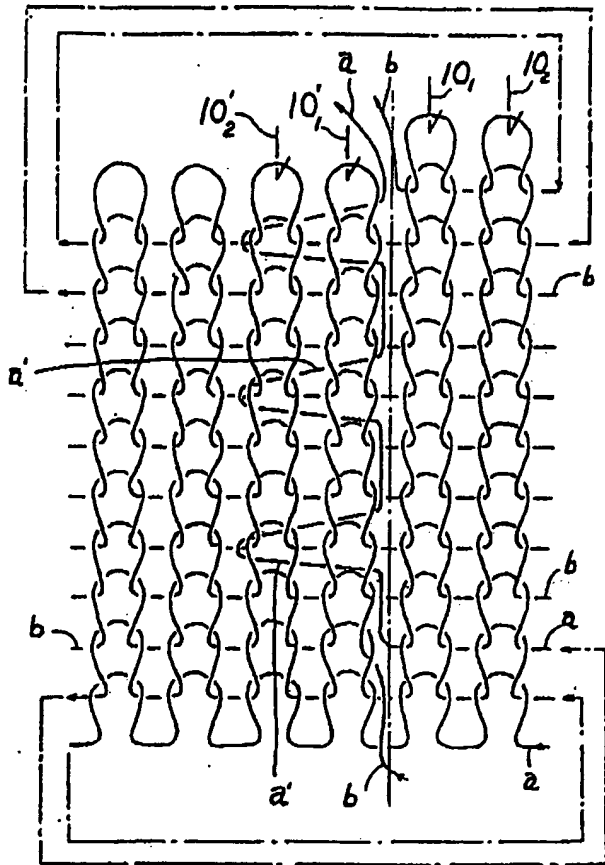
第 5 図



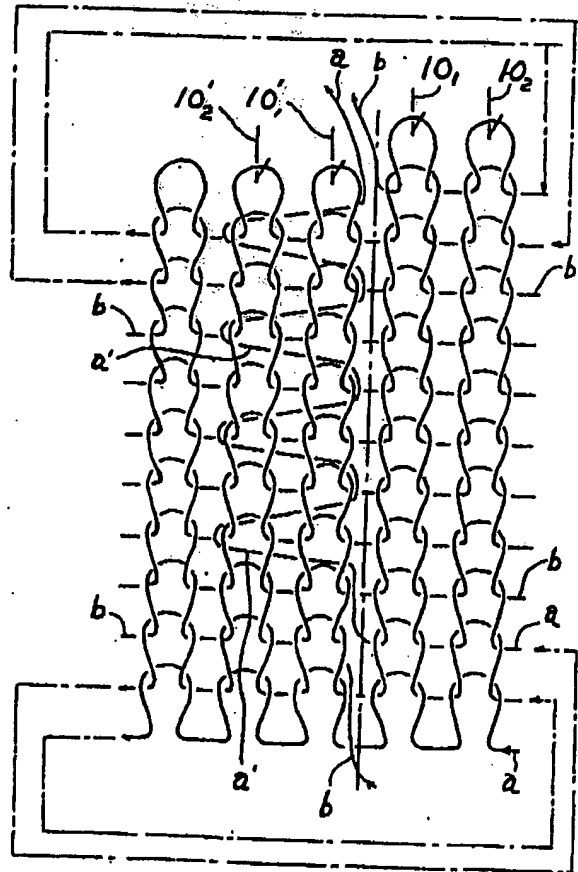
第 6 図



第 7 図



第 8 図



第 9 図

